

スクラム

～ 立志・挑戦・感動～

浮羽中学校学校通信

第15号(7月10日発行)

文責 校長 高倉 満

6月 学力分析テストの結果から(学年平均)

	国語	数学	社会	理科	英語	合計
1年	62.0	57.4	58.9	55.8		234.2 (400点)
2年	60.0	59.9	61.3	51.4	58.9	291.4 (500点)
3年	57.0	56.3	61.0	51.8	51.8	277.8 (500点)

■ 県平均 1年 219.7 2年 266.9 3年 255.0



○ 6月に実施された標準学力分析テストの結果が返ってきました。どの学年も本当に良く頑張っていると思います。1年生は小学校での学習が、2年、3年は昨年度の学習がしっかりとやれて、理解が定着している結果だと思います。コロナウイルス感染症対策のために臨時休校が長くなったことで、十分な学習ができたか不安でした。家庭学習の習慣が定着していないと学校から出された課題プリントだけでは継続した学習が難しく、理解も十分ではないだろうと心配もしていました。でも結果はその心配を吹き飛ばしてくれるものでした。もちろん学校再開後、授業に真剣に取り組んだ姿があったのだと思います。1年生は県標準比 106.6 と例年と同じような結果を出してくれました。2年生は県標準比 109 と1月の学力分析テストからは2ポイント下げましたが、十分な結果です。また3年生は県標準比 109 と1月の学力分析テストから5ポイント伸ばしてくれました。受験生としての意識が高まってきた結果だと思います。全学年、全教科で県平均を超えたことは、先生方とみんなが一生懸命に一時間一時間の授業に取り組んでいる姿があるからだだと思います。この結果をさらに大きく飛躍させるためにも、毎日の**家庭学習90分**を目標にして取り組んでほしいと思います。

保護者の方もご存じのように高校の入試問題が大きく変わってきています。どの教科も思考力・判断力・表現力を重視した内容が多くなりました。それに伴い国語では言語活動を大切にしている問題、数学では基礎的・基本的な技能・知識だけでなく筋道を立てて問題解決にあたる問題、社会では地図・統計・図表等の資料を多く活用し、読み取る問題、資料の比較・関連付けを行うなど思考力・判断力等の能力を幅広く見る問題、理科では観察・実験の結果を分析して解釈する力を問う問題、英語では知識や技能を活用し、目的や場面に応じて英語を理解して、自分の考えを表現する力を問う問題が多く出題されています。さらに、**入試問題がA4の冊子になり(例えば数学は8ページ)、図や表が大きく見やすくなっている反面、資料の量や文章量が増え、生徒の読む力や読解力、自分の考えた過程を説明する力などが必要になります**。学校でも授業の中で「書くこと」を大事にした学習活動や思考力・判断力・表現力等を重視した授業改善に取り組んでいます。

□ とうちゃんクラブに作業してもらいました！

7月5日(日)に30名程の保護者やOBの協力を得て作業が行われました。重機をはじめ機材を準備していただき、樹木の剪定や草刈り、側溝の泥上げ等、みなさんで協力をしていただきました。本当に感謝いたします。次回は9月の体育祭前に実施する予定です。子どもたちを見守る活動の一つとして、多くの保護者の方に協力をしていただくと助かります。よろしく願いしておきます。



